

## JIS化に向け透湿ルーフィングの性能の規格値を制定

透湿ルーフィングの防水性や透湿性の業界暫定規格値を制定した。

この規格値をもとにJIS取得も目指す。性能を明確にすることで、製品の信頼性を高め、普及拡大を図りたい考えだ。

透湿ルーフィングのメーカーで構成される透湿ルーフィング協会（東京都港区 武田敏会長）が、透湿ルーフィングの防水性や透湿性などの性能について、業界暫定規格値を制定した。

透湿ルーフィングは戸建住宅の屋根用防水シート。雨水などの水は通さないが、水蒸気などの湿気は通すのが特長だ。住宅の高気密・高断熱化が進む一方で、室内で排出される湿気が原因で屋根部などで結露が発

### 透湿ルーフィング協会の構成メンバー

旭・デュボン・フラッシュバン・プロダクツ
セーレン
ドルケン・ジャパン
ナガイ
フクビ化学工業

生するケースが増えている。住宅のなかで排出される湿気は、暖かな空気とともに上昇するため屋根裏に集中しやすい。このため、屋根の野地板と防水シートの間で結露する。木材である野地板は湿気を通すが、一般的な防水シートは湿気を通さないからだ。この結果、野地板などを腐らせる恐れがある。湿気を通す透湿ルーフィングを採用することで、野地板を通過する結露を外に排出し、屋根裏面を乾燥状態に保てる。戸建住宅の外壁に使用されている透湿防水シートの屋根版と言える。

ただし、外壁の防水では透湿防水シートの採用は当たり前になっているが、屋根の防水ではアスファルトルーフィングの採用率が高く、透湿ルーフィングのシェアは5%程度に

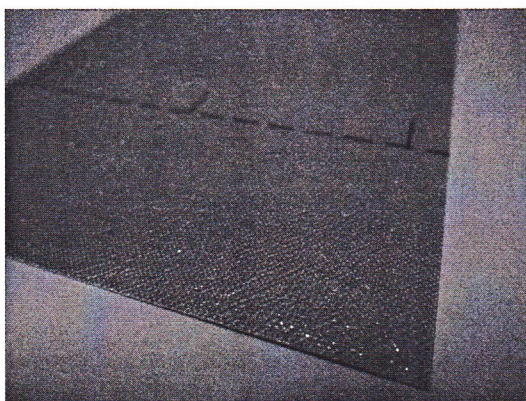
とどまっている。

「透湿ルーフィングはアスファルトルーフィングに比べて価格が3〜4倍と高く、普及が伸び悩んでいる」（同協会）という。

加えて、業界統一の性能基準がないことも、信頼性という面で普及の妨げになっていた。

そこで、今回、透湿ルーフィングの性能について、業界暫定の規格値を制定した。性能を明確にすることで、信頼性を高め、安心して使用できる環境を整える。

規格作成にあたっては、外壁で使っている透湿防水シートの規格であるJISA6111や海外のルー



透湿ルーフィングは水は通さないが、湿気は通す特性を持つ

フィング規格、アスファルトルーフィングの規格を参考に、透湿ルーフィング独自の性能を規定した。

例えば、初期防水性（耐水圧）は、透湿防水シートの規格JISA6111と同様の性能を規定し、アスファルトルーフィングなどと比べても遜色ない性能値としている。

一方、初期の透湿抵抗値については、万一、野地板が濡れてしまった場合でも、速やかに乾燥させることができる性能値を規定した。

その他、屋根の防水シートとして必要な長期の耐久性の規定も加えた。

### 協会会員メーカーに規格適合を求める

同協会では、今回制定した暫定規格値を基本案として、JIS化を目指す方針。すでに申請作業を進めている。早ければ2014年度にはJIS化したい考えだ。これに併行して、協会会員メーカーに対して、製品の暫定規格への適合を求めていく。性能を明確化することで、透湿ルーフィングならではの湿気を排出するという特徴を住宅事業者などに強くアピールしていきたい考えだ。